めいろうこどもえん　６月園だより

２０１８年度　年主題　〈イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で〉

0･1･2歳児６月主題　「かんじる」

月のねがい

◎保育者と一緒に賛美歌を歌う
◎空、お日さま、雲、雨などの自然を感じ、目を向ける
◎いろいろな物に興味を持ち、自分の好きな物を見つけて遊ぶ

3･4･5歳児６月主題　「感じる」

月のねがい

◎神さまがつくられた自然の中で過ごすことを喜ぶ
◎砂・泥・水で遊び、心地よさを感じる
◎自分でやろうとすることが増え、楽しさを感じると共に、うまくいかなくても大丈夫と感じる

今月の聖句　「わたしたちは、互いに愛し合いましょう。」

Ⅰヨハネ4:7

今月は表記のことばが与えられました。愛の使徒ヨハネの言葉です。原典では「愛」をアガペー（αγαπη）という言葉であらわしています。「博愛」とか「チャリティー」と訳出できます。ラゲという宣教師は「ご大切」と翻訳しました。これらの訳から意味は自ずと通じます。

大事なことは「互いに」が重要な鍵になります。自分が大切にされることを望まない人はいません。だが、自分と同じように隣人（他人）を大切に思ったり実行したりしているでしょうか。もし、相互博愛・相互尊敬が大切にされれば、人間関係は良好になります。国と国も同じです。相手国を互いに尊敬し大切にし合うなら、真の平和が構築されます。権利の主張だけでは平和は生まれません。

キリストは「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」。医者ルカは使徒言行録で「自分の事ばかりでなく、他人の事も考えなさい」。西郷南洲は「敬天愛人」。フランシスコ修道士は「愛されることより、愛することを」と勧めています。いずれも重い言葉です。言うだけでなく、実行できる人になるため、いつも想い、互いに祈ることから

６月の行事予定

１４日（水）	弁当日
１６日（土）	もも組誕生会(4~6月生)
１９日（火）	6月誕生会
２０日（水）	歯科検診（13:00より）
２１日（木）	弁当日

７月の行事予定

４日（水）	海あそび・弁当日
５日（木）	七夕事業所訪問
７日（土）	夏祭り・弁当日（2.3 号）
９日（月）	プールあそび
１２日（木）	７月誕生会
21･22 日	お泊まり保育（年長児）
１９日（木）	１学期終園式(1号:午前保育)

明　日

室生犀星

明日もまた遊ぼう！
時間を間違えずに来て遊ぼう！
子供たちは夕方になって
さう言って別れた
わたしは遊び場所に行って見たが
いい草の香もしなければ
楽しそうに見えないところだ
むしろ寒い風が
吹いているくらいだ
それだのにかれらは
明日もまた遊ぼう！
此処へ集まるのだと誓って
別れて行った

雨の季節になりました

ピンク、紫、水色・・・、紫陽花が色づき始めました。この時期になると私が一年目の梅雨の日の出来事を思い出します。6月のある日、子どもたちとお着替えをしていると、洋服の中から小さな白い虫が！！私は初めて見る虫に「ギャー！何これ！！」と騒いでいると、「これはねぇ、雨の季節に出る虫（羽アリ）だよ！」と子どもたちが教えてくれました。もうかれこれ11年前の出来事ですが、とっても鮮明に覚えています。

さて、だんだん笑顔で登園できるようになったお友だち。お気に入りのおもちゃや場所、お友だちを見つけて自分から遊べるようになってきました。その分、トラブルもだんだん増えてくるようです。

２歳児クラスでは、おもちゃの取り合いは日常茶飯事！取り合いの様子を見ていると、「だめ！」「あー！」と全力でおもちゃの引っ張り合いです。仲裁に入ろうかと迷っていると、近くにいた男の子が、似ているおもちゃを「どうぞ」と差し出してくれました。でも、「それはイヤ！」となかなか取り合いは収まりません。そこで仲裁に入り、「お兄ちゃんの方が貸してくれたらいいなぁ…」と声をかけると、「いいよ」と取り合いしていた1人が貸してくれました。似ているおもちゃを差し出してくれた優しさ、ちょっぴり我慢して貸してくれた姿にとても嬉しくなりました。この仕事を初めて11年目を迎えましたが、子どもたちに教えられること、成長の早さに驚くことの連続だと改めて感じました。

雨が続きますが、雨の季節ならでは遊び、広い体育館を使った遊びなど楽しんでいきたいと思います。　　大河

梅雨もまた楽しきかな

早いもので梅雨の季節に入りました。本格的な雨は今からでしょうか。天からの恵みの水は森を潤し、田を満たし、地にいのちを育みます。濡れた緑がつややかな表情を見せる光景は、心を穏やかにしてくれるでしょう。恵みの雨も長く続くとウンザリしてきますが、子どもたちが雨とも友だちになれる楽しい時間にしてくれます。どんな時も、日々繰り広げられる子どもたちのあそびの営みは、神様が子どもたちの内側に注がれた生命のエネルギーで溢れています。

先日、新聞のコラムで、室生犀星の「明日」という詩のことが少しだけ紹介されていました。何となく見覚えがあったので、全文を調べてみると、確かに高校の時に読まされた記憶が甦ってきました。砂を噛むような受験生活に悶々としていた私が、この詩をどう感じたかは覚えていませんが、なぜか「誓って別れていった」の箇所が記憶のどこかに残っていました。誓い合ってまでも明日の遊びを心待ちにする心情が懐かしく心を打ちます。大人から見れば取るに足らない場所や対象も、子どもはそこを遊び場所や遊ぶ道具に変える才能を持っています。ありふれた小枝が剣や魔法の杖に、レンゲやシロツメクサが髪飾りに・・・。そして、ふと気が付くともうとっぷりと日が暮れ、家に帰らなければならない時間です。「明日また遊ぼう！」とお互いに言いながら名残惜しそうに遊び場を後にする。そして、テレビもそこそこにエネルギーを使い果たした子どもたちは早く寝るのです。少し昔の子供時代はこういう日々がどこにでもありましたね。「時の経つのも忘れて夢中で遊ぶ」という行為は、「人格の基になる深い体験」です。今でもこういう詩がすとんと胸に収まるような体験ができる環境を残していきたいものです。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味を広げていきます。子どもを、自分の思いを持つ一つの主体として捉えるならば、自らの意志であそびを選び、創り出し、遊び込む中で得る自信や意欲というものこそ、真に大切にしたいものです。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

子どもとのコミュニケーション法

子どもとの絆を深めたい、仲良く暮らしていきたいという親としての願いがある中で、思いがけない子どもの言動に戸惑ったり、心穏やかにいられないことも多い育児の日々。
そんな時でも絆を深めてくれるのは、温かい言葉のやり取りです。コミュニケーションをとることで子どもと共感し合えたり、楽しみを共有できます。また、子どもとの遊びが豊かになったり、子どもの不安や苦痛を軽くしたりすることができます。こういった関わりの中から互いの存在を認め合い、幸福感を積み上げていくことができていきます。

今回から３回にわたってお子さんとの簡単なコミュニケーション法をご紹介したいと思います。今回の対象児童は０才から１才半頃までが目安になるかもしれませんが、もし今育児の壁にぶつかっているとしたら、このことのコミュニケーションを振り返って、もう一度ここからやってみるのも良いでしょう。立ちはだかる壁を乗り越える”羽”になってくれるかもしれません。

＜子どものしていることを真似る＞

例えば、子どもがテーブルをトントンと叩いていたら同じように叩きます。楽器で遊んでいたら同じ楽器で同じように真似ます。親が真似ることで、親は反応する存在であることを子どもに知らせます。また子どもは「自分が何かするとこの人も同じようにする」ということがわかると、自分の行動の持つ意味や効果に気づき、”自分には人を動かす能力がある”という自信を持つことができます。大切なことは、子どもの世界を知り、その行為を一緒に楽しむことです。楽しさの共有は共感性を促し、コミュニケーションへの意欲を育てます。

＜子どもの声や言葉を真似る＞

例えば「ダーダー」と言ったら、そのまま「ダーダー」「ワンワン」と言ったら「ワンワン」」と言って返します。子どもの声や言葉を真似ることで”声を出す”という子どもの行為そのものを認め、励ましていることになり、子どもの発声と発語意欲を育みます。また発声や言葉の意味、効果に気づかせて、親子の相互作用の糸口をつかむことができます。

仕事から帰ってきたお父さんや、人見知りされてしまうご親族の方々にもご紹介してみてください。

木口屋（心理士）

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

６月園だより

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん